

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																					
国際ファッションビューティ専門学校		平成16年12月28日		刑部 節		〒320-0804 栃木県宇都宮市二荒町6-6 (電話) 028-614-2336																					
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																					
学校法人ティビシイ学院		昭和60年3月26日		齋藤 武士		〒320-0811 栃木県宇都宮市大通り1-2-5 (電話) 028-622-8110																					
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																						
文化・教養	文化・教養専門課程	ブライダルスペシャリスト学科 ウェディングプランナーコース		平成27年文部科学省 告示第14号	-																						
学科の目的																											
多様化するブライダル業界のニーズに対応すべく、幅広い知識を持ち、ブライダルシーンあらゆる角度からプロデュース・トータルコーディネートできる、スペシャリストの育成を目的とする。																											
認定年月日																											
平成28年2月29日																											
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2	昼間	1756	576	1140	40	0	0																				
生徒総定員																											
44人		生徒実員		留學生数(生徒実員の内)		専任教員数																					
13人		0人		2人		兼任教員数																					
5人		0人		0人		0人																					
学期制度	■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日			成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 科目ごとに試験を行い、A,B,C,Dにより評価を付ける。																					
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏 季:7月5日～8月4日 ■秋 季:9月5日～10月4日 ■冬 季:12月5日～1月4日 ■春 季:3月5日～4月4日 ■学年末:3月31日			卒業・進級条件		①過年度の成績評価が全てC以上であること。 ②各コースにより指定された認定試験に合格すること(該当する場合のみ受験) ③各コースにより指定された基準検定を取得すること ④90%以上の出席率であること。 ⑤各科目それぞれ70%以上の出席率及び80%以上の総出席率であること。 ⑥学費、そのほか学校納付金の納入が完了していること。																					
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 保護者連絡・家庭訪問・三者面談等			課外活動		■課外活動の種類 ボランティア・学校周辺の清掃活動 ■サークル活動: 有																					
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和元年度卒業生) ホテル・結婚式場 他 ブライダル関連業界 ■就職指導内容 1年次より授業時間内で就職活動の流れ・活動方法などを指導。 就職ナビゲーションへの登録・インターンシップの参加を促す。 希望企業を明確にし、企業研究・個別指導・模擬面接を行い、第一希望の内定を目指す。 ■卒業者数: 6人 ■就職希望者数: 6人 ■就職者数: 6人 ■就職率: 100% ■卒業者に占める就職者の割合: 100% ■その他 ・進学者数: 0人 (令和 2年度卒業生に関する 令和3年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ASS認定試験</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>3級ブライダルコーディネーター技能検定</td> <td>①</td> <td>6人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>認定ウェディングプランナー</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>認定フワフワスタイリスト</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>6人</td> </tr> </tbody> </table>								資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ASS認定試験	③	6人	6人	3級ブライダルコーディネーター技能検定	①	6人	1人	認定ウェディングプランナー	③	6人	6人	認定フワフワスタイリスト	③	6人	6人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
ASS認定試験	③	6人	6人																								
3級ブライダルコーディネーター技能検定	①	6人	1人																								
認定ウェディングプランナー	③	6人	6人																								
認定フワフワスタイリスト	③	6人	6人																								
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																											
中途退学の現状	■中途退学者 0名 令和2年4月1日時点において、在学者12名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者12名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 0 ■中退防止・中退者支援のための取組 定期的に個人面談および三者面談を行い、保護者と連携した指導を行っている。 退学防止委員会を設置し、学生情報の共有化を図り、学校として学生とともに問題解決を図るべく努力をしている。			■中退率 0%																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 学費給付試験制度・家賃支援奨学金制度・家族入学金制度・卒業生奨学金制度・奨学生試験の実施 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科のホームページURL	http://www.fashionopt.ac.jp/fashion/course/mku_nail.php																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について  
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。  
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者であり、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留学」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について  
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。  
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職した就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)  
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科に於ける代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ブライダルスペシャリストの学科目的に基づき、専門分野に関係する企業等と連携し、就業先業界における専門性の動向、国又は地域の産業振興の方向性、新たに必要となる実務に関する知識・技術・技能などを把握分析し、当該学科の教育課程の編成に資する。

(活動)

- ① 関連業界の専門性に関する動向について把握・分析する。
- ② 新たに必要となる実務に関する知識、技術、技能などについて把握・分析する。
- ③ 当該専門課程にふさわしい授業内容や授業方法の工夫・改善を図る。
- ④ 当該専門課程にふさわしい授業科目の開設等を協議する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

- ① 校長の管理下、本校各種委員会(諮問機関)に位置付け、企業等委員と連携し今後の教育課程の編成に資する。
- ② 校長は当該委員会の答申を受け、運営委員会に諮り全体会議で協議の上、教務部のもと関係学科が教育課程の編成に当たる。

(運営)

- ① 当該委員会を本校内に設置する
- ② 委員は、企業等委員(業界団体等委員及び企業委員)と学校委員とする。
- ③ 委員長は学校長とする。
- ④ 年2回以上実施する。
- ⑤ 協議結果をできるだけ重視し、関係学科の教育課程に反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
野田 兼義	公益社団法人日本ブライダル文化振興協会 専務理事	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	①
鈴木 成太郎	株式会社鈴屋 代表取締役社長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	③
刑部 節	国際ファッションビューティ専門学校	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	
大塚 一弘	国際ファッションビューティ専門学校	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	
佐藤 亜希子	国際ファッションビューティ専門学校	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年6月29日 14:30～15:30

第2回 令和3年8月2日 13:30～14:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

- ・職に対する誇り：ブライダル実務の授業内で先輩講話を取り入れ、現場の現状・厳しさ・やりがいを見直しを再認識させた。  
仕事の大変さ・魅力について知る機会としてウェディングに関係なく接客サービスの経験(アルバイト等)をするよう指導。
- ・グローバル化への対応：英会話Ⅰ・Ⅱ及び特別授業として外国人講師による英会話の授業を行う。
- ・実践的授業展開：ブラッシュアップA・B及び模擬挙式の授業内で自分の意見・アイデアを積極的に出せるよう指導。  
多角的に物事を見つめる姿勢を促す。
- ・実務指導：模擬挙式の授業として企業実習・研修等を実施。学生は職場の現実を体感し、意識の向上が見られた。
- ・長期的取り組み：検定対策、英会話Ⅰ・Ⅱ、ブライダル実務、特別授業として①ブライダルコーディネーター国家技能検定対策 ②海外研修の充実  
③クレーム対応を含むロールプレイングの導入 ④アジア戦略等国際理解を深める研究・授業の実施 ⑤インターンシップの受入先開拓など。

## 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

### (1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

就業先等での模擬挙式等の企画・運営・実施を通し、現場で企業講師等から直接指導を受けることにより、即戦力となる最新の知識・技術を修得するとともに、ブライダルスペシャリストとしての素養を身につける。

### (2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ①担当教員と企業講師が実習前に打ち合わせし、実習内容の詳細について協議し、「実務実習計画書と学修成果の「評価基準」を作成する。
- ②企業講師は担当教員に実習中の配布資料や実習で使用される教材の説明を事前に行い、学生指導の連携を図る。
- ③実習期間中の学生の授業態度や様子の連絡を徹底して行い、校内の授業の指導に役立てる。
- ④実習後、学生の学習成果について話し合い、更なる改善・工夫の助言等を得る。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
模擬挙式	就業先等での模擬挙式等の企画・運営を通し、現場で企業講師等から直接指導を受けることにより、即戦力となる最新の知識・技術を修得するとともに、ブライダルスペシャリストとしての素養を身につける。	株式会社東武ホテルマネジメント 宇都宮東武ホテルグランデ

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

関係企業等と連携し、最新のメイク・ネイル業界に関連した実務の知識・技術並びに、学生に対する指導力等の習得・向上のため、企業等から講師を招いての校内研修、職能団体等が実施する校外研修等への参加等を組織的・計画的に推進する。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ウエディング・ブライダル業界 就活スタートアップセミナー」(連携企業等:株式会社ウエディングジョブ)

期間:令和2年12月23日(水) 対象:ブライダルスペシャリスト学科担当教員

内容:ブライダル業界の魅力や動向。業界で活躍する講師達による、就職活動に役立つ情報

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「ブーケ制作」(連携企業等:(有)平井生花店)

期間:令和2年10月3日(土) 対象:教職員

内容:ブライダルブーケ制作の基本について学ぶ

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ブライダルセミナー」(連携企業等:ブライダル産業新聞)

期間:令和3年8月17日(火) 対象:ブライダルスペシャリスト担当教員

内容:コロナ禍のウエディング

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「ブライダルセミナー」(連携企業等:ブライダル産業新聞)

期間:令和3年8月17日(火) 対象:ブライダルスペシャリスト担当教員

内容:コロナ禍のウエディング

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

教職員による自己評価について、学校関係者評価を行い、学校の現状と課題を明らかにし、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資する。

- ① 自己評価が適切に行われたか、その内容と方法について評価する。
- ② 学生、保護者、教職員、関係企業等調査により、学校の現状を把握する。
- ③ 授業や学校行事の参観、施設・設備の視察を通して、学校の現状を把握する。
- ④ 学校運営の改善に向けた取組が適切かどうか評価する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の理念・目的・育人人材像は定められているか</li> <li>・学校における職業教育の特色は何か</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・学校の理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか</li> <li>・各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか</li> </ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・人事、給与に関する規定等は整備されているか</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> <li>・教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実践されているか</li> <li>・関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育（産業連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や、教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、教育成果は伝えられているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>

(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</li> <li>・自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

### (3)学校関係者評価結果の活用状況

在学中、基礎の重要性を十分に理解させ、接客と施術の相互のバランスを習得させることが社会で大いに生かされるというご意見をいただいた。外部の研修等に積極的に参加させ、コミュニケーション力を高め、経験値をあげさせたい。その為に、様々な業界に關係する講師陣より指導を受ける機会や専門分野外の研修なども参加する機会を設けていきたい。

### (4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
鈴木 成太郎	㈱鈴屋 代表取締役社長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
大森 仁衣奈	Flicka*Nail サロンオーナー	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
竹之内 彩花	トータルビューティ学科卒業生	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
江連 綾香	雅の会(PTA)副会長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

### (5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL:<http://www.fashionpet.ac.jp/pdf/fbhyouka.pdf>  
公表時期:令和3年10月1日

## 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

### (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

- ・公的教育機関として、教育活動や取組について、社会への説明責任を果たす。
- ・教育組織等の情報のほか、教育活動の公表を通じて本校教育の質の向上を図る。
- ・わかりやすい積極的な情報提供により、地域社会全体の信頼を得る。
- ・特色ある職業教育を対外的にアピールし、関係業界、地域住民、学生、保護者等の理解や支援を得る。
- ・日常的・組織的に公正な情報収集・提供に努める。

### (2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育目的、目標及び計画、校長名、所在地、連絡先、学院・学校の沿革・歴史
(2)各学科等の教育	入学者に関する受入れ方針及び入学者数・収容定員・在学生数、進級・卒業要件等、取得を目指す資格・検定等及び実績、卒業生数・卒業後の進路、カリキュラム、時間割
(3)教職員	教職員数、教職員研修
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組状況、実習・実技等の取組状況、就職支援等への取組支援
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、学科行事
(6)学生の生活支援	学生支援の組織、学生支援の取り組み状況
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い、活用できる経済的支援等の措置の内容
(8)学校の財務	貸借対照表、消費収支計算書
(9)学校評価	自己点検・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	留学生入学規定(募集要項)
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

### (3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL:<http://www.fashionpet.ac.jp/pdf/fbjoho.pdf>

## 授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 プライダルスペシャリスト学科 ウエディングプランナーコース) 令和3年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		パソコン実習 I	ビジネスにおいて必要になる文書作成ソフトが使えるように学習する 実践的なWord・PowerPoint・映像制作	1通	72		△	○		○		○		
2	○		パソコン実習 II	ビジネスにおいて必要になる文書作成ソフトが使えるように学習する 実践的なExcel・PowerPoint・映像制作	2通	72		△	○		○		○		
3	○		ビジネスマナー	職場の基本的なマナーや仕事上のコミュニケーションを身につける	1通	36		○	△		○		○		
4	○		就職実務 I	就活の進め方・対策・企業研究	1通	72		○	△		○		○		
5	○		就職実務 II	筆記試験対策・個々における就活の振り返り・個別問題	2通	36		○	△		○		○		
6	○		英会話 I	生活に基づく基礎的な英会話の習得	1通	36		○	△		○			○	
7	○		英会話 II	職場(プライダル用語)で使える英会話	2通	36		○	△		○			○	
8	○		ブラッシュアップ ①	社会で柔軟な対応ができるよう、心構えを養う	2通	36		○	△		○		○		
9	○		ブラッシュアップ ②	社会人としての知識・強みを養う(検定対策他)	2通	36		○	△		○		○		
10	○		色彩学	色彩検定3級取得を目指す	1通	72		○			○		○		
11	○		メイク実習 I	メイクアップ技術検定3・4級取得を目指す	1通	108		△	○		○		○		
12	○		メイク実習 II	TONY TANAKA修了試験の合格を目指す	2通	108		△	○		○		○		





卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件 1) 通年の成績評価が全てC以上であること。 2) 各コースにより指定された認定試験に合格すること。(該当する場合のみ受験) 3) 各コースにより指定された基準検定を取得すること。 4) 90%以上の出席率であること。 5) 各科目それぞれ70%以上の出課率及び80%以上の総出課率であること。 6) 学費、その他学校の納付金が完了していること。 履修方法 学科ごとに指定された出課時数および、定期試験の合格を持って認められる。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	36週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																					
国際ファッションビューティ専門学校		平成16年12月28日		刑部 節		〒320-0804 栃木県宇都宮市二荒町6-6 (電話) 028-614-2336																					
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																					
学校法人ティビシイ学院		昭和60年3月26日		齋藤 武士		〒320-0811 栃木県宇都宮市大通り1-2-5 (電話) 028-622-8110																					
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																						
文化・教養	文化・教養専門課程	ブライダルスペシャリスト学科 ブライダルコーディネーターコース		平成27年文科科学省 告示第14号	-																						
学科の目的																											
多様化するブライダル業界のニーズに対応すべく、幅広い知識を持ち、ブライダルシーンあらゆる角度からプロデュース・トータルコーディネートできる、スペシャリストの育成を目的とする。																											
認定年月日																											
平成28年2月29日																											
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	1780	504	1236	40	0	0																				
生徒総定員																											
44人		生徒実員		留學生数(生徒実員の内)		専任教員数																					
44人		21人		0人		2人																					
						兼任教員数																					
						3人																					
						総教員数																					
						5人																					
学期制度	■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日			成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 科目ごとに試験を行い、A,B,C,Dにより評価を付ける。																					
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏 季:7月第5週目から8月第4週目 9月第5週目から10月第1週目 ■冬 季:12月第3週目から1月第1週目 2月第3週目から4月第2週目 ■学年末:3月31日 ■秋 季: ■春 季:3			卒業・進級条件		①満年の成績評価が全てC以上であること。 ②各コースにより指定された認定試験に合格すること(該当する場合のみ受験) ③各コースにより指定された基準検定を取得すること ④90%以上の出席率であること。 ⑤各科目それぞれ70%以上の出席率及び80%以上の総出席率であること。 ⑥学費、その他学校納付金の納入が完了していること。																					
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 保護者連絡・家庭訪問・三者面談等			課外活動		■課外活動の種類 ボランティア・学校周辺の清掃活動 ■サークル活動: 有																					
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和元年度卒業生) ホテル・結婚式場 他 ブライダル関連業界 ■就職指導内容 1年次より授業時間内で就職活動の流れ・活動方法などを指導。 就職ナビゲーションへの登録・インターンシップの参加を促す。 希望企業を明確にし、企業研究・個別指導・模擬面接を行い、第一希望の内定を目指す。 ■卒業業者数: 6 人 ■就職希望者数: 5 人 ■就職者数: 5 人 ■就職率: 100 % ■卒業者に占める就職者の割合: 83.3 % ■その他 ・進学者数: 0人 (令和2年度卒業生に関する 令和3年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ASS認定試験</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>3級ブライダルコーディネーター技能検定</td> <td>①</td> <td>6人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>認定ドレスコーディネーター</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>認定フワフワスタイリスト</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>6人</td> </tr> </tbody> </table>								資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ASS認定試験	③	6人	5人	3級ブライダルコーディネーター技能検定	①	6人	3人	認定ドレスコーディネーター	③	6人	4人	認定フワフワスタイリスト	③	6人	6人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
ASS認定試験	③	6人	5人																								
3級ブライダルコーディネーター技能検定	①	6人	3人																								
認定ドレスコーディネーター	③	6人	4人																								
認定フワフワスタイリスト	③	6人	6人																								
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																											
中途退学者の現状	■中途退学者 0名 令和2年4月1日時点において、在学者12名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者12名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 0 ■中退防止・中退者支援のための取組 定期的に個人面談および三者面談を行い、保護者と連携した指導を行っている。 退学防止委員会を設置し、学生情報の共有を図り、学校として学生とともに問題解決を図るべく努力をしている。			■中退率 0%																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 学費給付試験制度・家賃支援奨学金制度・家族入学生奨学金制度・卒業生奨学金制度・奨学生試験の実施 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科のホームページURL	http://www.fashionpet.ac.jp/fashion/course/maku_nail.php																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文科科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(給料が就職先が不明の者は就職者として扱ふ)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

プライダルスペシャリストの学科目的に基づき、専門分野に関係する企業等と連携し、就業先業界における専門性の動向、国又は地域の産業振興の方向性、新たに必要となる実務に関する知識・技術・技能などを把握分析し、当該学科の教育課程の編成に資する。

(活動)

- ① 関連業界の専門性に関する動向について把握・分析する。
- ② 新たに必要となる実務に関する知識、技術、技能などについて把握・分析する。
- ③ 当該専門課程にふさわしい授業内容や授業方法の工夫・改善を図る。
- ④ 当該専門課程にふさわしい授業科目の開設等を協議する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

- ① 校長の管理下、本校各種委員会(諮問機関)に位置付け、企業等委員と連携し今後の教育課程の編成に資する。
- ② 校長は当該委員会の答申を受け、運営委員会に諮り全体会議で協議の上、教務部のもと関係学科が教育課程の編成に当たる。

(運営)

- ① 当該委員会を本校内に設置する
- ② 委員は、企業等委員(業界団体等委員及び企業委員)と学校委員とする。
- ③ 委員長は学校長とする。
- ④ 年2回以上実施する。
- ⑤ 協議結果をできるだけ重視し、関係学科の教育課程に反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
野田 兼義	公益社団法人日本プライダル文化振興協会 専務理事	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	①
鈴木 成太郎	株式会社鈴木 代表取締役社長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	③
刑部 節	国際ファッションビューティ専門学校	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	
大塚 一弘	国際ファッションビューティ専門学校	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	
佐藤 亜希子	国際ファッションビューティ専門学校	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (6月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年6月29日 14:30～15:30

第2回 令和3年8月2日 13:30～14:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

- ・職に対する誇り：プライダル実務の授業内で先輩講話を取り入れ、現場の現状・厳しさ・やりがい再認識させた。
- ・仕事の大変さ・魅力について知る機会としてウエディングに関係なく接客サービスの経験(アルバイト等)をするよう指導。
- ・グローバル化への対応：英会話Ⅰ・Ⅱ及び特別授業として外国人講師による英会話の授業を行う。
- ・実践的授業展開：ブラッシュアップA・B及び模擬挙式の授業内で自分の意見・アイデアを積極的に出せるよう指導。多角的に物事を見つめる姿勢を促す。
- ・実務指導：模擬挙式の授業として企業実習・研修等を実施。学生は職場の現実を体感し、意識の向上が見られた。
- ・長期的取り組み：検定対策、英会話Ⅰ・Ⅱ、プライダル実務、特別授業として①プライダルローディネート国家技能検定対策②海外研修の充実③クレーム対応を含むロールプレイングの導入④アジア戦略等国際理解を深める研究・授業の実施⑤インターンシップの受入先開拓など。

## 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

### (1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

就業先等での模擬挙式等の企画・運営・実施を通し、現場で企業講師等から直接指導を受けることにより、即戦力となる最新の知識・技術を修得するとともに、ブライダルスペシャリストとしての素養を身につける。

### (2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ①担当教員と企業講師が実習前に打ち合わせし、実習内容の詳細について協議し、「実務実習計画書と学修成果の「評価基準」を作成する。
- ②企業講師は担当教員に実習中の配布資料や実習で使用される教材の説明を事前に行い、学生指導の連携を図る。
- ③実習期間中の学生の授業態度や様子の連絡を徹底して行い、校内の授業の指導に役立てる。
- ④実習後、学生の学習成果について話し合い、更なる改善・工夫の助言等を得る。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
模擬挙式	就業先等での模擬挙式等の企画・運営を通し、現場で企業講師等から直接指導を受けることにより、即戦力となる最新の知識・技術を修得するとともに、ブライダルスペシャリストとしての素養を身につける。	株式会社東武ホテルマネジメント 宇都宮東武ホテルグランデ

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記  
 関係企業等と連携し、最新のメイク・ネイル業界に関連した実務の知識・技術並びに、学生に対する指導力等の習得・向上のため、企業等から講師を招いての校内研修、職能団体等が実施する校外研修等への参加等を組織的計画的に推進する。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ウェディング・ブライダル業界 就活スタートアップセミナー」(連携企業等:株式会社ウェディングジョブ)  
 期間:令和2年12月23日(水) 対象:ブライダルスペシャリスト学科担当教員  
 内容:ブライダル業界の魅力や動向。業界で活躍する講師達による、就職活動に役立つ情報

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「ブーケ制作」(連携企業等:(有)平井生花店)  
 期間:令和2年10月3日(土) 対象:教職員  
 内容:ブライダルブーケ制作の基本について学ぶ

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ブライダルセミナー」(連携企業等:ブライダル産業新聞)  
 期間:令和3年8月17日(火) 対象:ブライダルスペシャリスト担当教員  
 内容:コロナ禍のウェディング

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「ブライダルセミナー」(連携企業等:ブライダル産業新聞)  
 期間:令和3年8月17日(火) 対象:ブライダルスペシャリスト担当教員  
 内容:コロナ禍のウェディング

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

教職員による自己評価について、学校関係者評価を行い、学校の現状と課題を明らかにし、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資する。

- ①自己評価が適切に行われたか、その内容と方法について評価する。
- ②学生、保護者、教職員、関係企業等調査により、学校の現状を把握する。
- ③授業や学校行事の参観、施設・設備の視察を通して、学校の現状を把握する。
- ④学校運営の改善に向けた取組が適切かどうか評価する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の理念・目的・育人人材像は定められているか</li> <li>・学校における職業教育の特色は何か</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・学校の理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか</li> <li>・各学科の教育目標、育人人材像は、各学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか</li> </ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・人事、給与に関する規定等は整備されているか</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> <li>・教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実践されているか</li> <li>・関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育(産業連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や・教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>

(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、教育成果は伝えられているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</li> <li>・自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

在学中、基礎の重要性を十分に理解させ、接客と施術の相互のバランスを習得させることが社会で大いに生かされるというご意見をいただいた。外部の研修等に積極的に参加させ、コミュニケーション力を高め、経験値をあげさせたい。その為に、様々な業界に関係する講師陣より指導を受ける機会や専門分野外の研修なども参加する機会を設けていきたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
鈴木 成太郎	佛鈴屋 代表取締役社長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
大森 仁衣奈	Flicka*Nail サロンオーナー	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
竹之内 彩花	トータルビューティ学科卒業生	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
江連 綾香	雅の会(PTA)副会長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL:<http://www.fashionpet.ac.jp/pdf/fbhyouka.pdf>

公表時期: 令和3年10月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

- ・公的教育機関として、教育活動や取組について、社会への説明責任を果たす。
- ・教育組織等の情報のほか、教育活動の公表を通じて本校教育の質の向上を図る。
- ・わかりやすい積極的な情報提供により、地域社会全体の信頼を得る。
- ・特色ある職業教育を対外的にアピールし、関係業界、地域住民、学生、保護者等の理解や支援を得る。
- ・日常的・組織的に公正な情報収集・提供に努める。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育目的、目標及び計画、校長名、所在地、連絡先、学院・学校の沿革・歴史
(2) 各学科等の教育	入学者に関する受入れ方針及び入学者数・収容定員・在 student 数、進級・卒業要件等、取得を目指す資格・検定等及び実績、卒業生数・卒業後の進路、カリキュラム、時間割
(3) 教職員	教職員数、教職員研修
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組状況、実習・実技等の取組状況、就職支援等への取組支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、学科行事
(6) 学生の生活支援	学生支援の組織、学生支援の取り組み状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い、活用できる経済的支援等の措置の内容
(8) 学校の財務	貸借対照表、消費収支計算書
(9) 学校評価	自己点検・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	留学生入学規定(募集要項)
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL:<http://www.fashionpet.ac.jp/pdf/fbjoho.pdf>

## 授業科目等の概要

(文化・教養課程 ブライダルスペシャリスト学科 ブライダルコーディネイターコース) 令和3年度																
No.	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			パソコン実習Ⅰ	ビジネスにおいて必要になる文書作成ソフトが使えるように学習する実践的なWord・PowerPoint・映像制作	1通	72		△	○		○		○		
2	○			パソコン実習Ⅱ	ビジネスにおいて必要になる文書作成ソフトが使えるように学習する実践的なExcel・PowerPoint・映像制作	2通	72		△	○		○		○		
3	○			ビジネスマナー	職場の基本的なマナーや仕事上のコミュニケーションを身につける	1通	36		○	△		○		○		
4	○			就職実務Ⅰ	就活の進め方・対策・企業研究	1通	72		○	△		○		○		
5	○			就職実務Ⅱ	筆記試験対策・個々における就活の振り返り・個別問題	2通	36		○	△		○		○		
6	○			英会話Ⅰ	生活に基づく基礎的な英会話の習得	1通	36		○	△		○			○	
7	○			英会話Ⅱ	職場(ブライダル用語)で使える英会話	2通	36		○	△		○			○	
8	○			ブラッシュアップ ①	社会で柔軟な対応ができるよう、心構えを養う	2通	36		○	△		○		○		
9	○			ブラッシュアップ ②	社会人としての知識・強みを養う(検定対策他)	2通	36		○	△		○		○		
10	○			色彩学	色彩検定3級取得を目指す	1通	72		○			○		○		
11	○			メイク実習	メイクアップ技術検定3・4級取得を目指す	1通	108		△	○		○		○		
12	○			ヘア実習	ブライダルヘアの基礎	1通	108		△	○		○			○	





卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件 1) 通年の成績評価が全てC以上であること。 2) 各コースにより指定された認定試験に合格すること。(該当する場合のみ受験) 3) 各コースにより指定された基準検定を取得すること。 4) 90%以上の出席率であること。 5) 各科目それぞれ70%以上の出課率及び80%以上の総出課率であること。 6) 学費、その他学校の納付金が完了していること。 履修方法 学科ごとに指定された出課時数および、定期試験の合格を持って認められる。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	36週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。